

用語の定義

罹患数

ある集団で一定期間に新たにがんと診断された数（本報告書では岡山県在住の方で2011年に新たにがんと診断された数）のことである（再発を含まない）。

罹患率

罹患数を観察対象地域の人口（本報告書では岡山県の人口）で割ったものであり、通常は1年間の10万人あたりの罹患数で表現される。罹患率は観察対象集団の観察期間のがん罹患の頻度（本報告書では2011年に岡山県で新たに発症したがんの頻度）の指標となる。

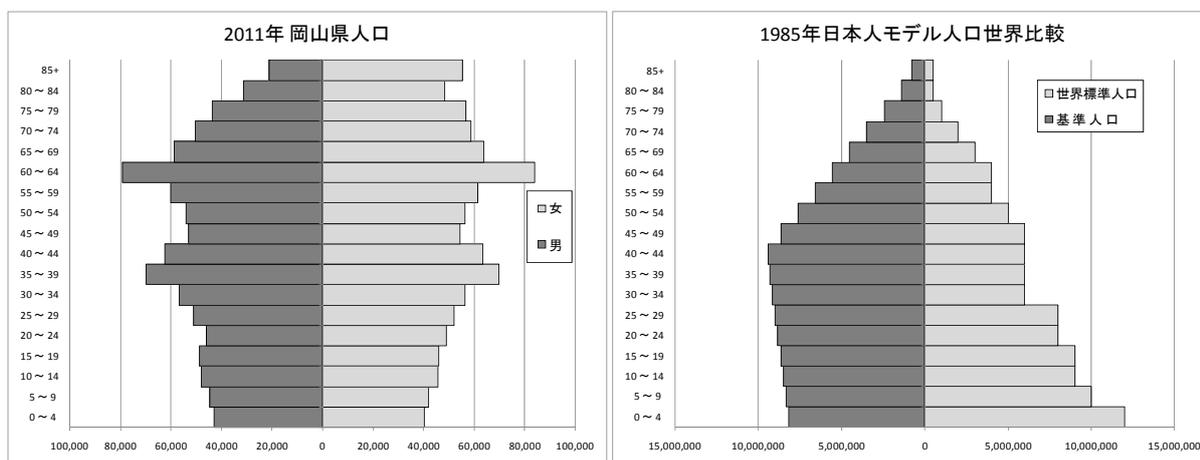
・粗罹患率

罹患数を、単純に観察期間の人口（本報告書では2011年の岡山県の人口）で割った、年齢調整をしていない罹患率。通常1年単位で算出され、「観察対象地域の人口10万人のうち何人罹患したか」で表現される。

・年齢調整罹患率

罹患率を比較しようとする集団間の人口年齢構成が異なっている場合に年齢構成の相違を除外した罹患率。対象となる地域の人口の構成が基準人口と同じであると仮定して算出される。

現在、基準人口には、1985年日本人モデル人口が使われている（下図参照）。



死亡数

ある一年間のがんが原因で死亡した方の人数。人口動態統計により把握できる。

死亡率（粗死亡率・年齢調整死亡率）

死亡率、粗死亡率、年齢調整死亡率の定義は上記の罹患率、粗罹患率、年齢調整罹患率と同様である。罹患数を死亡数に置き換えて計算した値である。

生存率

がんと診断されてから一定期間後に生存している確率であり、通常パーセントで表わす。5年生存率とは診断から5年後に生存している罹患者の割合を指す。

DCN (Death Certificate Notification)

死亡情報で初めて登録室ががん患者であることを把握した症例（死亡情報が登録された時点で届出されていない症例）割合。DCNが高ければ届出漏れが多く、罹患者が実際よりも低く見積もられている可能性が生じる。

DCO (Death Certificate Only)

がん登録症例に対する死亡情報のみで登録された症例の割合。岡山県では死亡情報で初めて把握された症例に対しては、詳細情報を得るため医療機関に対して補充調査を行っている。DCOが低いほど計測された罹患者の信頼性が高いと評価される。国際的な水準ではDCOは10%以下であることが求められる。

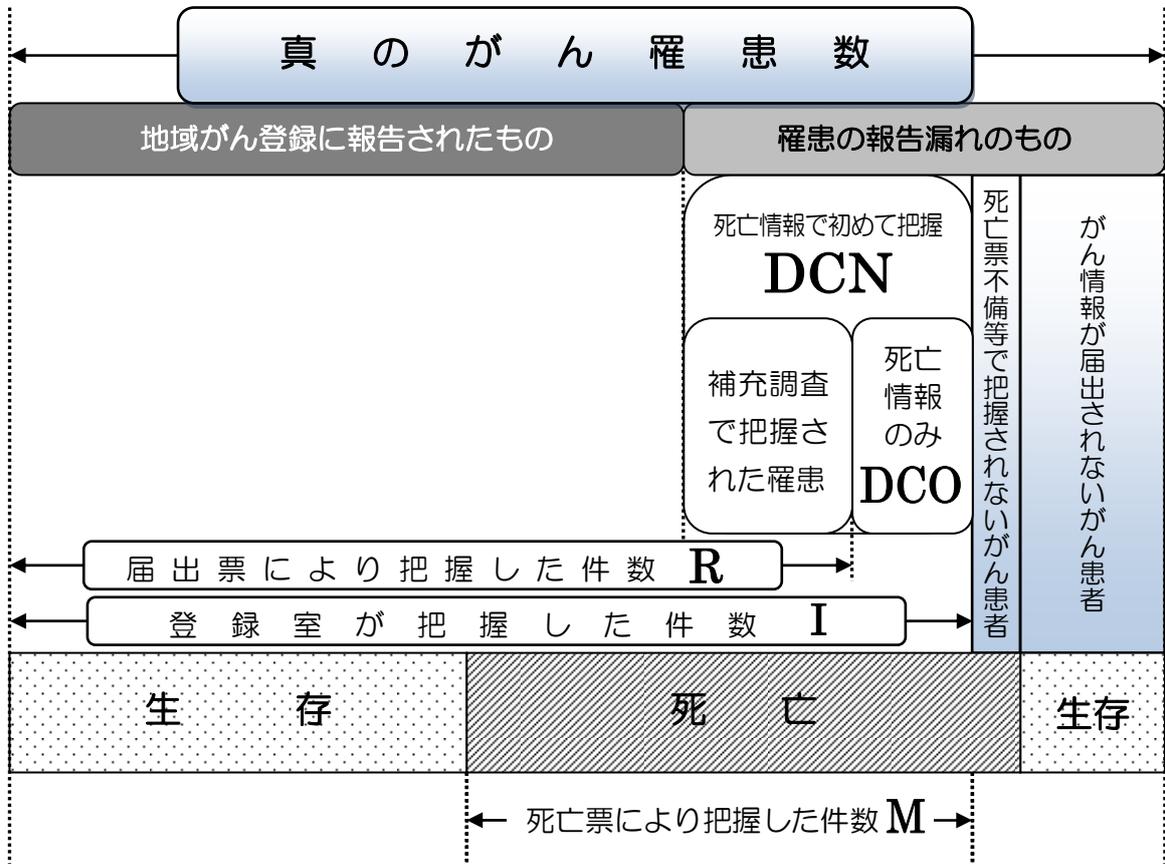
IM比 (Incidence Mortality Ratio : I/M、 ID比ともいう)

一定期間におけるがん罹患者のがん死亡数に対する比。生存率が低い（予後不良で死亡症例が多い）場合、あるいは届出が不十分な（実際より罹患者が少ない）場合に低く、生存率が高い場合や一人の患者を重複登録している場合には高くなる。

現在のがん患者の生存率から、全がんで2.0程度が妥当といわれている。

以上 DCN、DCO、IM比はがん登録における登録精度の指標として用いられる。

医療機関からの届出および死亡票との照合が終了した時点における届出患者数、死亡情報から得られたがん患者の数及び届出のない患者の数などの関係は下記の図のように示すことができる。



地域がん登録における登録精度の指標としては、IM 比 2.0 程度、DCN 割合 20%未満、DCO 割合 10%未満という値が示されている。さらに登録の完全性に関する条件としては IM 比 1.5 以上及び、DCN 割合 30%未満もしくは DCO 割合 25%未満の基準を満たすこととし、全国値の推計に用いられる。

岡山県においては、DCN 症例に対して補充調査を行っており、県内外の医療機関の協力を得て、全国値の推計に用いられるなど高い評価を得ている。

更に、がん診療連携拠点病院で院内がん登録が義務化され、一段と精度の改善が見られている。